

## 論文要旨

学位論文題目 地方都市における在来産業の盛衰と家族戦略——岐阜既製服産地の事例分析

氏名 前田尚子

家族は多様化したといわれているが、地域的多様性に関する研究の蓄積は進んでいない。日本の家族社会学では産業化を単線的な過程とみているが、実際には、日本の産業化は多系的に展開しており、各地域が経験した産業化パターンはさまぎまである。なかでも本研究が着目するのは、工場制生産システムによる近代的工業化とともに家内労働力に依存した在来的工業化も進展してきたことである。在来的工業化が進んだのは中央日本内陸部である。そこでは3世代同居率は比較的高いにもかかわらず女性就業パターンは育児期中断型という、一見すると矛盾しているような特徴を示している。しかしながら、在来的工業化と家族変動との関係についての研究はいまだ行われていない。また、従来の家族変動論は主に産業化が進行した時代に焦点化しており、産業化が停滞あるいは衰退した局面における家族変動の研究は緒に着いたばかりである。

そこで、本研究では、戦後、既製服産地として発展したが、1990年代以降、急速な産地の解体に直面している岐阜市を事例として、在来産業の盛衰と家族変動の関係を家族戦略概念を用いて分析する。以上の目的に迫るために、3つのリサーチクエスチョンを設定した。

1. 岐阜市を特徴づける家族戦略の析出
2. 家族戦略と産業変動の関連の解明
3. 個人戦略と家族戦略の関係の分析

分析に用いるのは岐阜市で実施した2つの調査のデータである。

- ①第1子2歳児母親調査：住民基本台帳から無作為抽出した第1子2歳児の母親を対象として2003年に実施した質問紙調査。郵送法により配布1350票に対して490票を回収（回収率36.3%）
- ②同居育児専業女性調査：3世代同居して育児に専念する女性（かつてそうであったものも含む。以下「同居育児専業女性」とする）のライフヒストリーの収集を目的としたインタビュー調査。17名を対象として2012~13年に実施。

結果は以下のとおりである。

1. 第1子2歳児母親調査データを用いて育児期女性の就業と世代間居住関係の関連を計量的に分析したところ、夫がブルーカラー職であると夫方同居をして育児に専念する傾向が見出された。これを岐阜市を特徴づける家族戦略とした。
2. 同居育児専業女性のライフヒストリーを用いて、こうした家族戦略をとる女性とその母親世代（実母と義母）の職歴を産業時間と関連づけて分析したところ、母親世代は既製服製造業の中核的な担い手として発展から衰退までを支えてきた世代であった。子どもが小さいころは自宅で縫製内職に従事し、技能がある場合には孫が生まれるころになっても続けていた。夫のみの収入で生活できる階層において

も、技能を持つ場合には、自宅でできる収入の良い仕事として縫製内職に従事していた。一方、同居育児専門女性には縫製業経験者はごくわずかである。しかし、彼女たちの記憶には縫製内職に従事する母親たちの姿が刻まれており、母親の仕事は収入が良く、「主婦」としての役割をきちんと果たしていたと評価していた。同居育児専門女性の就業パターンを同居する義母のそれと重ねると、2世代の女性が相補的に働いている事例がある。具体的には、結婚後まもなくは両世代ともに生産労働に従事するが、出産とともに嫁世代は離職し、姑世代は生産労働を続けて家計を支える。やがて子どもが3歳になると嫁世代は再就職し、のちに姑世代が生産労働から引退するのである。

3. こうした相補的な役割関係は、典型的には、縫製業に従事してきた姑世代と人的資本が蓄積されていない嫁世代の組み合わせにおいて現れた。これらの事例では、夫方同居をして育児に専念するという育児期女性の個人戦略が直系家族の戦略として成立しやすいからである。

4. 以上の知見を統合し、戦後日本の家族変動について新たな地域類型を提示した。高度成長期には各地で安定的な構造を持つ家族が形成された。2大都市圏郊外では性別分業型核家族、東北・日本海地域では多就業型直系家族、そして、在来的工業化によって経済的発展を遂げた岐阜市では、夫はサラリーマン・妻は縫製内職という共働き家族が多数形成された。1990年代以降、家族の経済基盤が揺らぎ若い世代の家族形成が困難になっているが、岐阜市ではこれまでの家族を土台として新たな家族戦略が展開されている。それは、直系家族制に依拠して3世代同居し、2世代の女性が子どもの発達段階に応じて相補的に就業して家計の安定的均衡を図るというものである。

本研究の学術的貢献は以下の2点である。

#### 1. 新たな家族変動論の提示

日本の産業化の特徴をふまえた理論枠組みを構築した。さらに、産業時間と世代という視点を導入することにより、産業化の時代とグローバリゼーション時代の家族変動を連続的に捉える道を開いた。

#### 2. 家族戦略概念に対する理論的貢献

育児期における家族内分業を世代間の役割関係にまで広げて分析することの有効性を示した。また、役割関係を動的な過程と捉え、時間とともに変化する様子を描き出した。さらに、育児期女性の個人戦略が直系家族の家族戦略として成立する構造的条件を明らかにした。